

かんと軌近ノ社會主義 (四、完)

米田庄太郎

(6) るーどらひ・びるる・みん (Ludwig Woltmann)

がゐるとまんハ本來かんとトまゐるくすトだーういんトヲ結合シ調和セント企ダテタノデア
ルガ、茲ニハ只かんとトまゐるくすトノ結合ニ關スル彼ノ思想ノ方面ダケヲ研究スルニ止メル。彼
ハ政黨の社會主義ニ入ル以前ニ公ニセル著作、「倫理的意識ノ體系」(System des moralischen Be-
wusstseins, mit besonderer Darlegung des Verhältnisses der kritischen Philosophie zu Darwinismus
und Sozialismus, 1898.) ニ於テ既ニかんとの倫理的思想ハ社會的正義ノ最トモ高尚ナル又唯一ノ
可能的表出デアルト考ヘ、社會主義ヲ精神の沈滞ヨリ救フ唯一ノ可能ハ經濟的團體主義及ビ唯物
主義ノ觀念ト批判的倫理哲學ノ原理及ビぶらとん、いえずー、并ニかんとの最高思想トヲ内部の
ニ結合シテ倫理的經濟學ヲ組織スルニ在ルト論ジ、更ニ進化主義的及ビ社會主義的倫理ノ内容ハ
其ノ認識批判的基礎ニ於テ無條件的ニ批判的倫理學ニ從ハチハナラスト云ヒ、又かんとの倫理哲
學ハ社會主義ノ倫理學ニシテ、社會主義ノ倫理學ハ倫理的法則ノ社會經濟的充實デアルト論ジテ
居ル。併シがゐるとまんがかんとトまゐるくすトノ結合調和ヲ圖ラントテ彼ノ思想ヲ組織的ニ詳
シク論述シテ居ルノハ、「歴史の唯物主義」(Die historische Materialismus, Darstellung und Kritik

der Marxistischen Weltanschauung, 1900) ニ於テデアル。

づゑるとまんハ本書ニ於テ批判の方法ト進化史の方法、論理の方法ト心理學の方法トヲ區別シ、而シテ認識論ハ一切ノ進化論ノ一ノ必然の前提デアルコトヲ論證セントテかんどノ「純粹理性批判」ノ眞義ヲ闡明セント試ミテ居ル。又倫理ノ認識批判の論證ニ就テモ前ノ著作ニ於テヨリハ遙カニ詳シク論述シテ居ル。併シ茲ニハ只彼ガ批判の見地ヨリ如何ニまゐるくす世界觀ヲ評價シテ居ルカヲ簡單ニ述ベテ、以テかんどトまゐるくすトノ調和ヲ圖ル彼ノ態度ノ一斑ヲ示シテ置ク。

づゑるとまんノ見ル處ニヨレバ、まゐるくす自身ハ意識シテ居ラナカツタガ、實際ニ於テ彼ノ學問的思惟法ノ概念ハ疑ヒモナク又全然かんどノ批判哲學ニ一致シテ居ル。而シテかんどガ成熟セル科學ノ總合的條件ヲ分析セシト同ジク、まゐるくすハ資本主義の進化過程ノ成熟セル結果ヲ分析シタノデアル。サレバまゐるくすニ於テモ矢張り認識論ハ第一ノ問題デアツタノデ、彼ハ彼ノ新説ヲ「諸研究」ノ「案内者」デアルトモ云フテ居ル。彼ノヘーゲルニ對スル態度ハ少クモ根本ニ於テハ批判的唯心論ヘ歸ルコトヲ意味スルモノト解セザルヲ得ナイノデアル。サレバまゐるくす説ハ表面上ニ於テハ唯物主義ノ最トモ完全ナル體系トシテ建設サレテ居ルニ係ラズ、其ノ奥底ニ於テ批判的唯心主義ト連絡點ヲ有ツテ居ル。而シテ其ノ連絡點ヲ觀破シテ以テ唯物主義のニ完成サレテ居ルまゐるくす説ヲかんどノ批判主義ニヨリテ補充セテバナラヌ。換言スレバまゐるくすが其ノ思想體系ヲ完成スルニ用ヒタル發生の方法ヲ批判的方法ニヨリテ補充シ、以テ其ノ體系ヲ改造セテバナラヌ。然ラハ其ノ連絡點トハ如何ナルモノデアルカト云フニ、夫レまゐるくすニ

於テハ唯物史觀說ハかんとノ用ヒシ意味ニテ云フ一ノ「觀念」、卽チ認識過程ノ法則的發展ニ於テ自カラ生レル一ノ規制レギュレーション的原理原理デアル。而シテカカル「觀念」（即チ「指導原理」ハ歴史家ノ出發點トシテ必要缺ク可カラザルモノデアル。蓋シかんとノ云ヘル如ク「經驗ヲ方法的ニ整ヘルコトノミガ、獨リ觀察スルト云ヒ得ラレルモノデアル」カラデアル。然ルニ總テカカル觀念ノ眞理價值ハ其ノ效果ニヨリテ決定サレルモノデアル。科學ハ只探究ノ途ニ於テノミ成立スルモノデアル。而シテまゐるくすハカカル見地ヨリシテ、かんとガ成熟セル科學ニ就テナセルト同ジク、經濟的進化過程ノ成熟セル結果ヲ分析シタノデアル。是レ彼ノ學說ガ「先驗トランスセンデント的構想」ノ一種デアルガ如ク見ユル所以デアル。

ゲおるどまんハ更ニまゐるくすノ思想ニ於テ同様ナル傾向ヲ有スル諸要素ヲ巧メニ連結シテ居ルガ、茲ニ其ノ一班ヲ示サンニ、今まゐるくすノ考フル處ニヨレバ、人間ニ於テハ自然の材料ニ對シテ、自然的勢力ガ意識サレタル目的ニ從フテ創造スル力トシテ發現スル。勞働者ハ自己ノ仕事ヲ完成スル爲メニハ合目的意志ヲ要スル。最トモ拙劣ナル建築家スラモ、最トモ巧妙ナル蜂ヨリ本來區別セラルル點ハツマリ彼ハ蜜ニ於テ蜜房ヲ作ル前ニ既ニ頭ニ於テ之ヲ造テ居ルト云フ事デアル。サレバ人間ニアリテハ蜜房ガ物質的ニ作ラルル前ニ、夫レハ既ニ觀念的ニ存在シテ居ルノデアル。此クテ人類進化ノ第一階段トシテ自然的勢力ノ上ニ技術ガ加ハリ、自然ニ對スル人類ノ能働の關係ヲ發達サセル。而シテ其ノ上ニ社會ノ經濟的構造ガ築カレ、更ニ其ノ上ニ人類ノ社會的部類分ケガ發達スル。蓋シ經濟的行爲ノ領域ニ於テハ人類ハ經濟的關係ノ「盲啞的強制」ニ

從アカラデアル。此クテ其等ノ經濟的關係ハ階級的關係トナリテ種々ナル社會的階級ヲ生ム。併シ主觀のニハ人々ハ階級關係以上ニ上ルコトガ出來ル。而シテゾゑるとまんハ少クモなゝるくすニヨリテ偶然ニ承認サレタル此ノ「箇人ガ自己并ニ階級ノ利益ト云フ經濟的動機以上ニ主觀のニ上ルコトノ可能性」ヲ、更ニなゝるくす、えんげるとす思想ノ全體ニ於テ潜在スル倫理的暗流ニ結び付ケ、以テなゝるくす主義者ヲシテ單ニ經濟的ナル立場ヲ越ヘテ倫理的立場ニ意識的ニ登ル必要ヲ承認セシメント努メテ居ル。而シテなゝるくすノ歴史觀ハ根本的ニハ如何ニ全ク倫理的デアールカラ證明セント試ミ、又如何ニ唯物史觀ノ唯物主義的覆面ノ下ニ倫理的目的主義ガ隱クサレテ居ルカラ指摘シテ居ル。更ニなゝるくす主義ノ説ク社會進化ノ歴史の階段ヤ、又其ノ主人ト奴隸、餘剩價值ト勞働者ノ絞取、自由ト壓迫等ノ諸關係ニ就テ下セル總テノ斷定ハ、決シテ純因果的ニ理解シ得ラレルモノデナクシテ、其ノ奥底ニハ理論上激シク排斥シテ居ル其ノ目的論的、倫理的評價ガ潜ンデ居ルコトヲ論證セント企ダテテ居ル。尙ホゾゑるとまんハ特ニえんげるとすニ就テ、彼ハかんとノ認識論及ビ倫理學ヲ誤解シテ居ル、或ハ全ク理解シテ居ラナイト非難シ、彼ノ認識論ハ全ク感覺主義デアルト評シテ居ル。併シえんげるとすニ於テモ、亦かんと哲學ノ方針ニなゝるくす主義ヲ發達サセ得ル多クノ連絡點ノ存在スルコトヲ認メテ居ル。

要スルニゾゑるとまんハなゝるくす主義ニ向テ種々ノ深刻ナル批評ヲ加ヘテ居ルニ拘ラズ、決シテ之ヲ排斥セントスルノデハナク、之ヲ批判的ニ改造シテ以テ批判哲學ト同盟シ融合セシメ、益々其ノ内面的眞理價值ヲ發揮セシメントスルノデアアル。彼ノ考フル處ニヨレバかんとハへーげ

るヨリモ其ノ精神ニ於テ遙カニ近代的デアリ、又一層親シク自然科學的及ヒ社會主義的世界觀ニ接シテ居ル。此ノ事ハ社會主義的社會組織論ニ於ケルかんと倫理學ノ意義ガ如何ニ重大デアルカヲ考フル時ハ殊ニ痛切ニ感ゼラレルノデアル。社會主義ハ第一ニ一ノ倫理的必然デアル、而シテまゐるくす主義ガ若シ實質的ニ大ナル效果ヲ舉ゲントスルナラバ、決シテかんと哲學ヨリ離レルコトハ出來ナイノデアル。

以上述べシガゐるとまんノ説ニヨリテまゐるくす主義者ノかんと化ハ如何ナル程度マデ進メルカヲ最トモヨク理解スルコトガ出來ルト思フ。但シガゐるとまんノ説其物ハ如何程正當デアルカハ問題ニシテ、まゐるくす主義者ノ中ニモ彼ノ如クニマデかんと化スルコトニ反對スル人々ハ多イ、殊ニ露國ノ有名ナルまゐるくす主義者ぶれハのギャ又らつぽぼーとナドハ、之レニ對シテ猛烈ナル批評ヲ加ヘテ居ル。併シ余ハ茲ニハ只社會主義者ノかんと化ノ程度ガ遂ニ如何程マデニ達セルカラ示ス爲メニ、特ニガゐるとまんノ説ヲ選ンデ、其ノ大要ヲ述ベタルデアルカラ、其ノ是非ノ批判其ノ評價ハ敢テ試ミズニ措ク。而シテ終リニ露國ニ於ケル社會主義ノかんと化運動ニ就テ少シク論ズルコトトスル。

(7) 露國ニ於ケル社會主義ノかんと化ト主觀主義

露國ニ於テまゐるくす主義ガ大ニ勢力ヲ振ヒ始メタルハ千八百九十年代デアルガ、夫レニ先タツ十年代即チ千八百八十年代ニ於テ大ナル勢力ヲ有シテ居ツタノハ同國ニ於テ特ニ主觀主義ト稱セラレル一派ノ思潮ニシテ、即チらろろガニヨリテ創唱セラレ、殊ニみはいろろガニヨリテ

其ノ精神ノ大ニ發揮サレタルモノデアル。併シ同思潮ノ起源發達ニ就テハサキニ本論叢ニ於テ連載セル拙稿「露國ニ於ケル資本主義ノ發達ノ特徵ト最近ノ大革命」中ニ稍々詳シク述べ、又特ニみはいろがすき！ノ思想ニ就テバ、「哲學研究」ニ於テ連載セル拙稿「みはいろがすき！ノ社會學的思想ノ創始的價值」ニ於テ詳シク論述シテ居ルカラ、茲ニハ只同國ニ於ケル社會主義ノかんと化ノ傾向ノ發達上、主觀主義ガ如何ナル意義ヲ有スルカラ、少シク論述スルダケニ止メテ置キタイト思フ。

今らごろがハかんと哲學ノ遵奉者デアルトモ云ハレテ居ルガ、併シ彼ハドレホドマデニかんと哲學ヲ研究シ、又之ヲ理解シタカハ問題デアル。トニカク彼ノ社會主義ノ觀念及ビ認識批判論ハ多クノ點ニ於テ社會主義化セル新かんと派ノ哲學者ノ思潮ニ一致シテ居ル。茲ニ其ノ一班ヲ示シテ置クガ彼ハ先ヅ社會主義ヲ以テ單ニ經濟的及ビ歴史の必然ニ過ギザルモノト考ヘズ、更ニ一ノ倫理の必然デアルト認メテ居ル。而シテ真理、正義、進歩、人格、人格の尊嚴等ノ觀念ヲ以テ基本觀念トナシ、又「身體的、精神的及ビ倫理的關係ニ於テ人格ノ完全ニ發達スルコト、社會的形態ニ於テ真理ト正義トノ具現スルコト」ヲ究極目的ト觀念シ、「吾人ノ人格の尊嚴ハ吾人ト連帶的ナル總テノ人々ノ人格の尊嚴ヲ尊重スルコトニヨリテノミ保持サレ」、社會的理想トハツマリ「平等者ノ強固ニ團結セル共同生活團體」デアルト考ヘタノデアル。

次ニらごろがハ又認識論ノ方面ニ於テモ新かんと派ノ思想ニ觸レテ居ル。彼ハ哲學ハ統一ト調和トノ欲望ヲ充タス可キモノデアルト觀念シ、まゝるくすノ客觀的或ハ發生的方法ニ對抗セシメ

テ彼ノ主觀の方法ナルモノヲ唱ヘテ居ル。彼ノ考フル處ニヨレバ歴史ハ單ニ原因ト結果トノ紐ニ過ギナイモノデナク、又目的ト手段トノ織物デアル。而シテ其等ノ目的及ビ手段ハ人間ノ精神ニ於テ一定ノ體統ヲナシテ連結スルモノデアル。サレバ人間ガ依テ以テ目的ヲ定メ手段ヲ選ブ其ノ自由意志ノ觀念ハ、實際ニ於テ物理的及ビ心理的事變ノ先行系列ニヨリテ如何ニ自然科学の二決定サレテ居ルニセヨ、「全ク避ケ得可カラザル幻想」デアル。自由意志ノ原本的ナル主觀的事實ハ實踐哲學ノ唯一ノ確實ナル基礎デアル。人間ハ目的及ビ手段ノ選擇ニ於テ自由デアルト云フ此ノ基本的ナル、内部的理想化ヨリ起ル信仰ハ、自然ニ於テ支配スル客觀的法則ト同様ナル不可避力ヲ以テ人間ノ精神ニ影響スルモノデアル。

以上述ベシコトダケヲ考ヘルモらざるゾノ思想ハ社會主義化セル新かんと派ノ哲學者ノ思想ニ如何ニ近ヅイテ居ツタカラ察セラレルノデアル。吾人ハ又同様ノ傾向ヲみはいろグすきーノ「ぶらぐだ」説（眞理ト正義トノ合致ヲ究極目的トスル思想）ニ就テモ發見スルコトガ出來ル。（詳シクハ上ニ擧ケタル拙稿ヲ參考セラレタイ）。要スルニ露國ノ主觀主義ハ同國ニ於テなまるくす主義ガ大ニ勢力ヲ振フ以前ニ發達シタモノデアルガ、而モなまるくす主義ノ批判的考察ガ始マリ、同主義者ノ中ヨリ起レル所謂新なまるくす主義ノ運動即チなまるくす主義ヲかんと化セントスル運動ト其ノ主意ニ於テ大ニ一致スル處ガアツタ。隨フテ右ノ運動ノ發生及ビ發達ノ上ニ直接又ハ間接ニ深大ナル影響ヲ及ボセルモノト思ハレルノデアル。

(8) 露國ニ於ケル社會主義ノかんと化ノ發達

今露國ニ於テまゐるくす主義カ大ニ勢力ヲ振フテ來タノハ千八百九十年代ニ入りテカラデアル併シ同年代ノ終リ頃ニ至テハ既ニ之ヲ批判的ニ考察シテ其ノ根本的改造ヲ企ツル傾向ガ發達シテ來タ。是レ即チ新まゐるくす主義運動ト稱セラルルモノデアル。而シテ此ノ運動ガサホドニ早ク露國ニ於テ發達シタノハ、是レ其頃西歐ニ於テ同一ノ傾向ガ大ニ發達シテ來タ影響ト、主觀主義ノ反動ノ影響トニ基因スルモノト思ハレル。併シ此等ノ問題ニ就テモ余ハ上ニ舉ゲシ論文中ニ論述シテ居ルカラ、茲ニハ省略シテ、直チニ新まゐるくす主義運動ニ於ケルかんと化ノ發達ニ就テ論究スルコトトスル。而シテ此ノ發達ニ就テ先ヅ注目ス可キ代表的思想家ハ、すつるーヂえ、ベるぢやえ、つーがんばんらのぢすきー等ノ人々デアル。然ルニすつるーヂえ、及ビつーがんばんらのぢすきーノ説ニ就テハ、矢張り上ニ舉ゲシ論文中ニ於テ可ナリ詳シク論述シテ居ルカラ、茲ニ省キ、而シテ同論文ニ於テハ都合上略シテ置イタベるぢやえ、ノ説ヲ茲ニ特ニ説述シテ以テ、露國新まゐるくす主義者ノかんと化ノ態度ノ一斑ヲ示スト共ニ、右ノ論文ヲ補ナフテ置キタイト思フ。

にこらこ、ベるぢやえ、(Nikolai Berdiaev) ハ千九百年「のこえつあこ」ニ於テ公ニセル論文ニ於テ、ふりーどりつひ、あるばーと、らんげ及ビ批判哲學ヲ社會主義トノ關係カラ見テ論究シ、以テ彼ノ立場ヲ明カニセント企ダテテ居ル。彼ハ自カラまゐるくす主義ノ熱心ナル遵奉者デアルト明言シテ居ルガ、併シ之ヲ盲目的ニ遵奉スルモノデナク、批判的ニ其ノ改造ヲ企タツル一派ニ屬シテ居ル。今彼ノ考フル處ニヨレバ、正統派まゐるくす主義ノ哲學的基礎ヲ慎重ナル批判

的吟味ニ附スルコトハ今日甚ダ必要ナル事デアル。而シテ此ノ吟味ハ必ズヤまゝるくす主義ヨリヘーげるノ辨證法及ビ哲學的唯物主義ヲ洗滌スルコトニナルデアラウト思フ。是レ此等ノ兩者ハ不批判的ナル獨斷的思想デアルカラデアル。又此ノ吟味ハ自カラなゝるくす主義ヲかんとノ批判主義ニ結び付ケル事ニナラチバナラス。抑々今日新かんと派ノ勃興シ來レルハ、是レ一方ニ於テハ思辨的唯心主義ノ形而上學的空想ニ對スル反動ニシテ、他方ニ於テハびひひなゝ、もれしよつと一派ノ淺薄ナル通俗唯物主義ニ對スル反動デアル。獨逸哲學ハ今ヤ再び其ノ生ミシ子ノ中ノ最大ナルモノ、いむまぬえる、かんとヲ臆ヒ起シテ其ノ眞面目ヲ發揮シテ來タ。而シテかんと批判主義ノ精神ハ獨逸思想ノ總テノ穴ニ益々浸ミ込ミツツアル。サレバ社會主義モ亦其ノ影響ヲ受ケテ自己ヲ改造シ、新シキ生命ニ生キントスル運動ヲ起ス可キモノデアル。

夫レ哲學の世界觀ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メニハ、吾人ハ認識論的或ハ論理的見地ト心理學的見地トヲ判然區別シナクレバナラス。かんとノ先驗的ハ一ノ純粹ナル論理的概念ニシテ心理學的又ハ生理學的問題トハ全ク關係ノナキモノデアル。經驗ノ條件ハ論理的ニハ經驗其物ニ先立タチバナラス、是レ前者ノミガ獨リ後者ニ普遍妥當性ヲ與ヘルモノデアルカラデアル。「悟性其ノ物ガ自然ノ法則ノ淵源デアル」ノデアル。サレバらんげノ如ク先驗的ヲ人間ノ心理的構造ニ於テ求メントスルハ方法論上ノ謬見デアル。而シテ此ノ謬見ヨリシテ彼ハ論理的結論ト年代の結果トヲ混同シ、心理學的原理ニ基ツキテ認識論ヲ論證セントスル謬見ニ陷ツタノデアル。カカル謬見ハ又自カラすべんさゝ流ノ進化論的認識論ニ吾人ヲ導クノデアル。云フマデモナク野蠻人ノ知識ト第

十九世紀ノ哲學者ノ知識トノ間ニハ大ナル懸隔ガアル。而モ夫レハ先驗主義ノ純論理的性質トハ何等ノ關係モ有シナイ。「論理ハ永久ニシテ絶對的デアル」。而シテ經驗主義ヲ徹底シテ行ケバ、遂ニ主觀主義及ビ懷疑主義ニ到達スルヲ避ケルコトガ出來ナイ。只かんと認識論ノ基礎ノ發展ノミガ、科學的法則性、客觀的知識ニ吾人ヲ導クノデアル。而シテ又哲學的批判主義、認識論ハ人間ノ思惟ヨリ惡質有害ナル沈澱物ヲ除キ去リ、學問的世界觀ノ地盤ヲ準備ス可キ大任務ヲ有スルモノデアル。

べるぢやえづハ又倫理ニ關シテかんとノ批判主義ノ重要ヲ認メ、倫理ノ眞義ハ唯物史觀ノ一般ニ企ダツル如ク、單ニ因果の歴史のニ考察スルダケデ、到底理解シ得ラレルモノデナイト考ヘ、「吾人ハ道德法則ヲシテ萬人ヲ拘束シ、倫理的ニ普遍妥當のナラシムル其ノ先驗性ヲ承認スル。道德的法則ハ深ク普遍的超越的意識ニ根柢ヲ有スルモノデアル」ト云フテ居ル。而シテ道德ガ形式的ニ先驗的ナルコトハ其ノ内容ガ人類ノ社會的存在ニヨリテ制約セラレ、絶ヘズ變動ヲ受ケルト云フ事實トヨク調和スルモノナルヲ論證セント試ミテ居ル。尙ホ彼ハ道德ハ論理的ニハ階級ノ上ニ立ツモノデアルト同時ニ心理的ニハ常ニ階級道德トシテ現ハルモノニシテ、宛モ眞理ハ論理的ニハ總テノ階級ノ上ニ立ツガ、心理的ニハ一ノ階級ニ親近シ、他ノ階級ヨリ遠ザカリテ現ハレルガ如クデアルト論ジテ居ル。

併シべるぢやえづハ以上述べシガ如クニ考ヘルダケデハ、尙ホまゝるくす主義ト哲學的批判主義トノ内面的結合ヲヨク完成シ得タルモノトハ云ヘナイト考ヘ、更ニ自カラ左ノ問題ヲ呈出シテ

居ル。「唯物史觀ノ原理、即チ意識ノ諸形態ハ存在ノ諸形態ニヨリテ決定サレルト云フ思想ハ、如何ニシテ吾人ノ認識論ノ原理、即チ一切ノ存在、一切ノ實在ハ意識ニ依屬シ、經驗ニ於テ認識シ得ラルル世界ハ先驗的認識形式ナクシテハ思惟シ得ラレナイモノデアルト云フ思想ト一致サレル可キカ」。彼ハ個人の心理的意識（主觀主義ノ根源）ト普遍的論理的意識（客觀主義ノ根源）トノ稍複雑ナル區別ニヨリテ此ノだれいれむヨリ脱レ出デヤウト企ダテテ居ル。彼ノ考フル處ニヨレバ、唯物史觀說ハ只前者ヲ説明スルダケデアル。後者即チ超越的意識ハ存在ヨリ引キ出サレ得ナイモノデアル。而モ唯物史觀ハ其ノ基礎トシテ後者ヲ必要トスルモノデアル。蓋シ單純ナル經驗主義及ビ唯物主義ハ唯物史觀說ニ何等ノ普遍妥當性、隨フテ何等ノ客觀性ヲモ與ヘ得ナイカラデアル。併シ唯物史觀說ハ夫レ自身デ普遍的意識ノ形式的先驗性、一切ノ客觀的真理ノ此ノ根源ヲ掴ムコトハ出來ナイ。只哲學的批判主義ノミガ吾人ノ世界觀ノ主觀的要素ト客觀的要素トニ夫レ夫レ正當ナル地位ヲ與ヘ得ルノデアル。即チ前者ニハ心理學上ノ地位ヲ與ヘ、後者ニハ論理學上或ハ認識論上ノ地位ヲ與ヘルノデアル。而シテ學問的論理的客觀主義ハ根本的ニハ只各主觀主義、心理學的哲學ヲ排除スル批判的哲學ノ地盤ニ於テノミ建設サレ得ルモノデアル。

以上述ベシ處ニヨリテべるちやえづハ批判的方法ノ眞義ト重要トヲヨク理解シテ居ルコトガ察シ得ラレル。而モ彼ハ形而上學的ナ云ヒ表ハシ方ニヨリテ屢々彼ノ認識論的思想ヲ濁ラシ、又まゝくす主義ト批判主義トノ調和ヲ始メニ期待サレタ程明瞭ニハ遂行スルコトハ出來ナカッタ。尙ホ其後彼ハ「社會哲學ニ於ケル主觀主義及ビ個人主義、みはいろぐすき」ノ批判的研究（千九

百一年)ト題スル著作ヲ公ニシテ居ルガ、併シ根本的思想ニ於テハ上ニ述ベシ以上ニハ進ンデ居ラナイ。更ニ彼ハ結局形而上學的ナ本體論の一元主義ヲ唱へ、折角ノ認識論的、批判主義的研究ヲ根本的ニ打壞シテ仕舞フタカトモ思ハレル。

(四) かんとい化ノ實際的影響

却說余ハ以上述べ來リシ處ニヨリテ、先ヅ新かんと派ノ間ニ起レル社會主義化傾向ノ原因及ビ發達一般ヲ明ラカニシ、次ニ社會主義者ノ間ニ起レルかんと化傾向ノ原因及ビ發達一般ヲ明ラカニシテ、以テ社會主義ノ軌近ノ發達ニ於ケルかんとノ深大ナル影響ヲ大體上究明シタト思フガ、要スルニ新かんと派ノ社會主義化ノ傾向ニ於テハ、新かんと派ノ哲學者ノ一部分ガかんとノ實踐哲學ノ現代の擴張トシテ、彼ノ倫理學ノ根本思想ヲ社會問題ニ應用シ、理想主義的社會主義、倫理的社會主義ノ觀念ニ到達シテ、唯物主義的經濟的ナルまゐるくす主義ヲ排斥セントスル態度ヨリ出發シ、夫レヨリ段々かんと主義トまゐるくす主義トノ調和ニヨリテまゐるくす主義ノ根本的改造ヲ圖リ、以テかんとと哲學ノ現代の意義ヲ十分ニ發揮セントスル運動ニ進ミタルガ、社會主義者ノかんと化ノ傾向ニ於テハ先ヅ頭腦鋭敏ナル彼等ノ或者ガ近來思想界ノ背景トシテ唯物主義ノ勢力ガ衰へ、理想主義ガ大ニ復活シ來レル形勢ノ影響ヲ強ク感じ始メ、而シテ其際特ニ勢力ヲ有セル新かんと派ノ思想ニ着目シ、かんと思想ノ或物ヲ攝取シテ以テ、まゐるくす主義ニ於テ倫理的理想主義の要素ヲ強メントスル態度ヲ發達サセ、夫レヨリ段々まゐるくすノ思想ヲかんとノ思

想ニ結び付ケ、或ハかんとノ立場ヨリ見テまゐるくす主義ヲ根本的ニ改造シ、兩者ノ調和ヲ圖ルコトニヨリテ、以テ社會主義ニ新生命ヲ注入セントスル運動ヲ發達サセテ來タコトヲ見ルノデアアル。此クテ右ノ二傾向ハ遂ニ大體上同一ノ態度ヲトルニ至リ、而シテかんとノ影響ハ愈々強マツテ來タノデアアル。今新かんと派及ヒ社會主義者ノ兩方ヨリ殆ンド同時ニ、又相互の影響ノ下ニ發達シ來レルかんとトまゐるくすトヲ根本的內面的ニ結合シ調和セントスル企ダテガ、今日マデニ現ハレタル種々ナル具體的形態ニ於テ如何程成功シタカラ批判的ニ考究スルコトハ、種々ナル方面ヨリ見テ甚ダ興味アル問題デアルガ、余ハ始めヨリ茲ニ之ヲ論述スル考ヘテ有タズニ本論文ニ着手シタノデアアリ、又最早茲ニ之ヲ論述スル暇モナイカラ、他日別ニ之ヲ論述スルコトトナシ、是レヨリ輓近ノ社會主義ガ其ノ理論的思想ノ方面ニ於テ上ニ述ベシガ如キ變動ヲナシ來レル結果トシテ、其ノ實際的運動ノ方面ニ於テモ亦如何ナル變動ガ起リ來リシカラ極簡單ニ説述シテ以テ、本論文ヲ終結シタイト思フ。

サキニモ述ベシ如ク、輓近まゐるくす主義ガ理想主義化シ來レル結果トシテ、其ノ實際的運動ニ於テ起レル變動ハ大體上二ツノ方針ニ區別サレル。其ノ一ハ革命主義ヲ益々強メテ過激ナル運動トナリツツアルコトニシテ、其ノ二ハ革命主義ヲ棄テテ進化主義改良主義ニ移リ、段々温和ナル運動トナリツツアルコトデアアル。而シテ其ノ過激ナル革命主義ノ方針ニ進ミツツアル運動ハ一般ニ非合理的理想主義ノ影響ヲ受ケテ理想主義化シツツアル社會主義者ノ群レニ於テ發達シ、之レニ反シテ進化主義改良主義ノ方針ニ進ミツツアル運動ハ一般ニ合理的理想主義殊ニかんと哲學

ノ影響ヲ受ケテ理想主義化シツツアル社會主義者ノ群レニ於テ發達シツツアルト思ハレルノデアル。然ラバかんと哲學ノ影響ハ如何ニシテ社會主義ノ實際的運動ヲ進化主義改良主義ノ方針ニ於テ温和化セシメタルカ。

先ヅ第一ニ注目ス可キハ批判主義ノ精神デアル。まゝるくす主義ハ社會的の革命ハ社會進化ノ自然的法則ニ從ガヒ、器械的の必然的ニ生起スルモノニシテ、而シテ此ノ革命ニヨリテ勞働者階級ノ完全ナル解放ガ始メテ成就サレルモノト見ルノデアル。然ルニ其ノ根據トスル事實或ハ理論、例ヘハ集中説及ビ集積説、絞取説及ビ困窮化説、恐慌説及ビ瓦壞説等ヲ批判的ニ吟味スルト、夫等ノ事實或ハ理論ハ一定ノ時期ニ於テコソ社會進化ノ必然的傾向デアルガ如クニ見ヘタレド、其ノ後ノ發達ヲ考察スルト、まゝるくすノ考ヘシ如ク、或ハ考ヘタト想像サレル如ク、必然的ナル傾向デナイコトガ發見サレル。否ナ其ノ反對ノ方向ニ發達シ來レルモノサヘモ發見サレルノデアル。此クテかんとノ批判主義ノ影響ニヨリテまゝるくす主義ノ社會革命説ヲ批判的ニ吟味スル態度ノ發達セシコトハ、右ノ説ノ事實的根據ノ不確實ナルコトヲ意識サセテ來タノデアル。更ニ事實ノ批判的研究ハ勞働者階級ノ解放ハ決シテ革命的ニ成就サレルモノデナク、進化的改良的ニ成就サレルモノナルコトヲ教ユルモノト考ヘラレテ來タ。此ノ如クニシテ先ヅかんと哲學ノ批判的精神ガ社會主義ノ實際的運動ヲ自カラ温和化スルコトヲナツタノデアル。

次ニかんと哲學ノ理論ガ又まゝるくす主義ノ社會革命説ノ妥當ナラザルヲ理解セシメテ來タ。而シテ此ノ方面ニ於テ最トモ深キ論究ヲ試ミタル一人ハ露國ノすつるーゲンデアルト思フ。すつ

るゝがえノ説ハサキニ述ベシ如ク、余ガサキニ本論叢ニ連載セル論文中ニ詳シク述ベテ居ルカラ
本論文ニ於テハ省イタノデアルガ、茲ニすつるゝがえガかんと哲學ノ理論ノ上カラまゐるくす主
義ノ社會革命説ノ謬妄ヲ究明シタル點ダケヲ簡單ニ述ベテ以テかんとノ影響ガ社會主義ノ實際的
運動ヲ温和化セシメタル理由ノ一斑ヲ明カニシテ置キタイト思フ。

今すつるゝがえノ見ル處ニヨレバまゐるくすノ社會進化説ノ最トモ根本的ナル理論の基礎ハ、
反對或ハ衝突ノ高マルコトニヨリテ進化ガ行ハレルト云フ説デアル。而シテまゐるくすハ其ノ反
對ガ強マルコトニヨリテ進化ガ行レルト云フコトヲ、ツマリ相反對スルニ要素ガ其ノ相反對スル
コトニヨリテ相並ンデ、又相互ニ他ノ影響ヲ受ケツツ愈々其ノ力ヲ増大シ、而シテ其ノ反對ガ愈
愈強マリ、遂ニ一ガ他ヲ全ク壓倒スルニ至ルト云フ意味ニ解シテ居ツタト思ハレル。併シ夫レハ
只反對ニヨリテ進化ノ行ハルル一方面ニ過ギズシテ、決シテ其ノ全體デハナク、其ノ方面ノ外ニ
吾人ハ更ニ幾多ノ他ノ方面ヲ認メテバナラス。尙ホ社會の革命トハまゐるくすノ考ヘシ如ク、單
ニ社會組織ノ部分的改造ヲ意味スルモノニ非ラズシテ其ノ全體的改造ヲ意味スルモノデアルトス
レバ、夫レハ決シテ一度ニ完成スルモノデナク、永イ永イ年月ヲ經テ始メテ成就スルモノデアル。
詳シク云ヘハ反對ノ強マルコトヤ、弱ハルコトヤ、中和的ニ適應スルコト等ノ種々様々ナル方法
ニヨリテ行ハルル甚ダ複雑ナル、随フテ多クノ年月ヲ經テ進ミ行ク過程デアル。併シ此ノ如キ社
會改造ノ過程ハツマリ進化ノ過程ニシテ、之ヲ革命ト云フノハ穩當デナイ。要スルニまゐるくす
ノ云フ社會革命ナルモノハ、其ノ真相ニ於テハ種々ナル方法ニヨリテ多クノ年月ヲ經ル中ニ除々

ニ成就スル進化ニ外ナラズシテ、決シテ一度ニ完成スルモノ、即チ革命ト稱セラルルモノデナイノデアル。併シまゝるくす主義者カ尙ホ其ノ理ヲ悟ラズシテ、社會革命說ヲ唱ヘテ居ルノハ彼等ガ其ノ深キ哲學的論據ト信ズル一定ノ思想ガアルカラデアル。而シテ其ノ思想ト云フハ即チ單ニ分量的ナル變化ガ新シキ性質ニ轉化スルト云フ思想デアル。彼等ハ此ノ思想ニ一種ノ神秘的辨證的説明力ヲ認メテ居ル。併シ此ノ思想ノ眞義ヲ深く認識論的ニ考究スルト、夫レハ決シテ彼等ノ皮想的ニ理解スルガ如キモノデナイコトガ發見サレルノデアル。

夫レ直接ニ與ヘラレタル性質變化ハ認識論上ノ問題トナルモノデナク、之レニ就テ成立スル認識論的問題ハ其ノ性質變化ガ如何ニシテ、同一「物」ノ變化トシテ理解サル可キカト云フコトデアル。今同一「物」ノ性質變化ナルモノハ只一定ノ條件ノ下ニ於テノミ思惟シ得ラレルノデアルガ、其ノ條件ノ中ニテ最トモ根本的ナルモノト認メラルルハ因果關係デアル。併シ又之レト同様ニ重要ナル他ノ條件ガアル。夫レハ變化ノ證明サレタル或ハ前定サレタル連續性デアル。此ノ「一切ノ變化ノ連續性ノ法則」ハヘーゲルニ從フテ思惟スルまゝるくす主義者ガ無意味ナル冗言デアルガ如クニ見做シテ居ルガ、決シテソウデナイ。見レ實ニかんとノ力說セル認識論上甚ダ重要ナル觀念デアルノデアル。而シテ彼等ノ考フルガ如キ社會革命主義ガ認識論上正當ナラズシテ、進化主義ノ正當ナル所以ヲ證明スルモノハ實ニ此ノ觀念デアル。「一切ノ變化ノ連續性」ト云フ觀念ハ吾人ガ其ノ變化ヲ理解スル爲メニ必要缺ク可カラザル認識論的及ビ心理學的公準デアル。其ノ理ヲヨク理解スルニ於テハ、吾人ハ一ノ獨立ナル理論的概念トシテハ革命ノ概念ノ認識論上維持

サレ難キ所以ト、又進化ノ概念ノ根本的ニ重要ナル所以トラ明ラカニ會得スルコトガ出來ルノデアル。要スルニ「分量ガ性質ニ轉化スル」ト云フハ、ツマリ連續的ナ又測定シ得ラレルモノトシテノ同一「物」ノ根本的變化ヲ特質ツケル爲メノ、他ノ論理的云ヒ表ハシ方ニ外ナラナイノデアル。「分量ガ性質ニ轉化スル」ト云フ事ハ決シテまゐるくす主義者ノ考フル如ク飛躍的ナル轉化ヲ意味スルモノニ非ズシテ、連續的ナル變化ノ自然的結果ヲ意味スルモノデアル。サレバ資本主義ヨリ社會主義ヘノ轉移ガ必然的ノモノトシテ證明サレル爲メニハ吾人ハ此ノ轉移ヲ正反對ノ一極端ヨリ他ノ極端ヘノ轉移ト解シテハナラス、而シテ之ヲ社會ノ連續的及ビ因果的ニ進行スル變化トシテ解セバナラナイノデアル。資本主義ト社會主義トハ全ク正反對ノモノニシテ兩者ノ間ニハ何等ノ連絡ガナイト觀念スル以上ハ、前者ヨリ後者ヘノ轉移ハ認識論上ニ於テモ亦現實的狀態ニ於テモ全ク不可能トナルノデアル。社會主義ト資本主義トハ本質的ニ相異ナレルモノ或ハ正反對ノモノニシテ、隨フテ資本主義ノ型ノ内ニ於テハ社會主義ハ發達スルコトガ出來ズ、又前者ノ手段ニヨリテ後者ヲ實現スルコトハ全ク不可能デアルト見ルニ於テハ、社會主義ノ歴史の必然性及ビ可能ハ認識論上又ハ發達史的考察上正當ニハ全然認メ得ラレナイコトニナルノデアル。要スルニ社會主義ノ必然性ハ資本主義的社會組織ヲ忽然社會主義的社會組織ニ轉變スルモノト考ヘラレルガ如キ社會革命ノ奇蹟ニヨリテ證明サレルノデハナク、只資本主義的社會内ニ於ケル經濟的現象并ニ其ノ法律的規制ノ連續的發達ニヨリテノ證明サレルノデアル。眞實ナル力トシテノ社會主義ハ現實ナル資本主義的社會内ニ於テ發達スルモノニシテ、而シテ其ノ漸次的連續的發

達ニヨリテ資本主義的社會ヲ改良のニ進化的ニ社會主義的社會ニ化成スルモノト觀念セラル可キモノデアル。

却説以上述ベシ處ニヨリテ、社會主義ノ思想ノ軌近ノ發達ニ於ケルかんと哲學ノ影響ハ、其ノ實際的運動ヲ如何ニ温和化シタカヲ察知スルコトガ出來ルト思フ。要スルニかんとノ影響ハ理論的ニハ社會主義ヲ理想主義化シ倫理化シ、而シテ實際的ニハ其ノ運動ヲ温和化シタノデアツテ、社會主義ガ現代社會ニ於テ當然發達ス可キモノト見做サルルニ於テハ、其ノ發達ノ上ニ健全ナル影響ヲ及ボシテ居ルト認メ得ラレルノデアル。併シ目下ノ世界の大戦亂ハ、かんとノ影響ニヨリテ上ニ述ベシガ如クニ發達シ來レル軌近ノ社會主義ノ上ニ更ニ如何ナル影響ヲ及ボスデアラウカ。此ノ問題ニ就テハ余ハ昨年「國民經濟雜誌」ニ於テ連載セル拙稿「戰後社會思潮ノ發達」ニ於テ稍々詳シク愚見ヲ述ベテ置イタカラ、茲ニハ之レニ論ジ及ボサズニ本論文ヲ了リタイト思フ。若シ本論文ノ讀者中ニ該問題ニ關スル愚見ヲ參考シタイト思ハルル人々ガアラバ、右ノ論文ヲ閱讀セラレタイ。(大正七年七月十四日)